

新晃工業

代表取締役社長

武田 昇三

2020年3月期の上期連結業績は、良好な事業環境のもと、空調機器、空調工事の需要取り込み尽力の結果、過去最高を更新する増収増益での着地となりました。下期も順調な推移となっており、



通期でも過去最高を更新する利益を確保できる見通しです。業績を支えた要因として一番に挙げられるのは東京五輪。直接の受注案件だけでなく、それに伴うインフラ関連の整備事業がボリュームゾーンを形成しました。

また、世界的なIT企業の東京への進出加速も推進材料となりました。首都圏の大型再開発事業は、2027年まで続く見通しですが、2025年開催の大阪・

関西万博の関連案件も2021年から22年ごろに動き出す模様。さらに、2027年に品川・名古屋間で予定されて

2019年の動向を通じて、かなり先の時点まで業界の姿を展望することができませんが、2020年に限ると、必ずしもプラス基調が1年間続くとはいえず、やはり様々なマイナス局面を想定しておく必要があると考えます。当社として、空調工業、三井鉄工は解散となりません。製造を担う両社を製販一体化の組織に統合することで、事業効率の向上と事業基盤の強化を目指します。この組織改革によってコスト・品質・納期の面で大きなプラス

今3月期、過去最高益見込む

いるリニア中央新幹線の開業に伴い、名古屋市内での大型再開発事業も始動しています。大阪のIR誘致は決定事項ではありませんが、いずれにしても全国各地で相当の案件増加が見込めると見ています。存続会社は当社で、新晃

ではこの間に内部組織の充実を図っていきます。その一つが連結子会社である新晃空調工業、三井鉄工との合併です。昨年12月18日の取締役会で決議したもので、合併実施は4月1日を予定しています。研究機関、さらには地域との連携を通じて、様々な用途にご利用いただける施設を目指していきます。セントラル空調の仕組みや空調機器の紹介を通してセントラル空調ならではの良さを訴求していきたいと考えています。

そして、3月3日から6日まで幕張メッセで開かれるHVAC&R JAPAN2020へ8年ぶりに出展し、この2年余りの間に発表したヒートポンプ空調機も展示します。新晃工業として、セントラル空調機器と共にヒートポンプ製品も手がけていること、ヒートポンプでもオーダーメイド製品をご提供できること、という新たな一面を打ち出していきます。